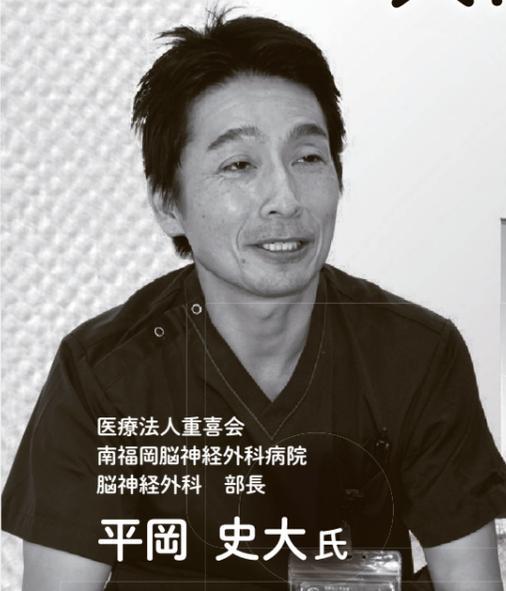


広告

企画・制作: 読売新聞社ビジネス局

南福岡脳神経外科病院 「人に優しい医療」をめざして開業



医療法人重喜会
南福岡脳神経外科病院
脳神経外科 部長

平岡 史大氏



医療法人重喜会
南福岡脳神経外科病院
理事長兼病院長

矢野 茂敏氏



開業記念対談

福岡市南区日佐、福岡脳神経外科病棟の近隣に7月1日、南福岡脳神経外科病院が開業しました。福岡脳神経外科病院から脳腫瘍・機能外科部門を分離し、近くの白浜病院の内科部門と連携させる新しいコンセプト。患者一人ひとりに寄り添った質の高い医療の提供を目指しています。新病院について、矢野茂敏・理事長兼病院長と平岡史大・脳神経外科部長が対談しました。

●内科もある新たな脳外科病院

脳に関連した 全身の病気を治療

——新病院設立の趣旨と概要を
ご説明ください。

矢野 福岡脳神経外科病院は2017年の開院以来、脳梗塞、くも膜下出血、脳内出血といった脳卒中の患者さんを24時間、365日受け入れておりまして、年々手術件数が増えています。

私たちが2人は主に脳腫瘍の治療を担当していましたが、じっくり検査して手術を行い、その後の治療やリハビリに十分な時間が求められる脳腫瘍部門では、診療の流れや患者さんの必要とする医療やケアが異なります。また脳腫瘍の患者さんに限らず、高血圧や糖尿病、誤嚥性肺炎など脳と関連が深い疾患を合併している患者さんは多く、内科的な治療の重要性を痛感していました。

それで脳腫瘍部門を分離して近くの白浜病院の内科と一つになった新病院を作ることになったのです。

平岡 総合病院ほどの機能はありませんが、内科と脳外科を組み合わせたという新しいコンセプトで脳に関連した全身の病気を診ることが出来ます。

矢野 開院して近隣病院との連携も増え、予想以上に患者さんの受け入れができています。目標の病院像に少しずつ近づいています。

平岡 建物は5階建て。2階で

じっくり検査、

じっくり治療とリハビリ

——急がず、じっくり手術をすべき疾病として脳腫瘍の症状や治療を教えてください。

矢野 脳の細胞から発生する脳腫瘍は髄膜腫、神経膠腫(グリオーマ)、下垂体腺腫、聴神経腫瘍が大部分を占めますが、そのほかにもがんの脳転移である転移性脳腫瘍もあります。

平岡 一番多い脳腫瘍が髄膜腫です。脳を包んでいる膜は何層かあって、まとめて髄膜と呼びますが、その髄膜と脳の間でできる腫瘍です。良性腫瘍の代表で、症状がない場合には手術をせずに経過を見ていただく方が多いですが、中には大きくなって脳を圧迫し、手足のしびれや麻痺が出現したり、物が二重に見えるたり、てんかんの発作を起したりすると手術が必要となってきます。

——下垂体腫瘍は矢野院長の専門領域ですね？

矢野 はい。下垂体は脳の中心部の視床下部にぶら下がっている約1センチの器官です。意識や覚醒、自律神経の動きを調整し、「ホルモンの司令塔」の役割も果たしています。腫瘍ができるホルモンが過剰に出て、体が大きくなったり、先端巨大症と言って手足が大きくなったり、太ったりします。視力に影響が出たり、女性は月経が止まることがあります。

●患者さんにもスタッフにも優しく

職種を超えた つながり広がる

——内科の診療の特徴は何ですか？

矢野 全般的な内科診療、地域の検診も引き続き行っておりまして、循環器に関する専門の医師や化学療法管理を専門とする医師がいますので、脳卒中や脳腫瘍で全身状態が悪化した患者さんの治療や、がんの化学療法を行いながらリハビリを継続することが可能です。福岡市南区のブロック支援救急病院に指定されておりまして、脳に関する患者さんで支援が必要な場合には積極的に受け入れたいと思っています。

平岡 新病院は「人に優しい医療」が理念と伺いました。これから目指すものを教えてください。

矢野 「人に優しい医療」とは患者さんだけでなく、地域の方々、働く職員にも優しい医療です。体の負担が少ない治療を行い、患者さんの声に耳を傾けます。フランス生まれのケア技法「ユマニチュード」のインストラクターのもとで、職員一同そのスキルに習熟するように患者さんやご家族への接し方を日々学ばせていただいています。

機能や状態を確認しながら、ナビゲーションで腫瘍や周辺器官、手術器具の位置をリアルタイムで確認しながら行うのが特徴です。内視鏡は4K画像でくっきりと鮮明に、外視鏡は望遠レンズのように患部とその周辺を拡大して見ることが出来ます。

より確実な手術と治療を行うため、当院の脳神経外科部門には「下垂体・内分泌センター」と「低侵襲脳腫瘍・機能外科センター」を開設しています。

平岡 髄膜腫や下垂体腫瘍など頭蓋底にできる腫瘍は専門的スキルが必要で、また内視鏡を使わないと適切に処置できません。じっくり検査して十分な準備を行い、術前には手術の必要性を検討し、何度も画像を見て医師同士で手術方針を確認し、患者さんにもきちんと説明します。内視鏡と外視鏡を併用することでより正確な手術ができます。

内視鏡と 4K画像による手術

——診断や治療は、近年とても進化していると聞きます。

矢野 解像度が良い磁気共鳴画像(MRI)を導入して診断に役立てています。手術のモットーは身体に優しい「低侵襲」。手術後の麻痺や頭痛、けいれん発作などの後遺症を避けるため、脳の重要な部分に電気刺激を送る神経モニタリングで脳の

職場になっていきたいです。平岡 丁寧な説明とスタッフの対応を心がけています。治療やリハビリで患者さんとご家族が満足されるだけでなく、スタッフの満足度も必要だと思えます。そのためにはスタッフ間の良好なコミュニケーションを大切にしています。

矢野 新しい入院患者さんの疾患と手術を報告する毎朝のカンファレンスには院内の全部署の代表が参加しています。医師だけでなく、看護師さんや栄養担当スタッフなど参加希望も増えて、患者さんの情報を共有して仕事に生かしています。職種を超えたつながりが育ちつつあることを感じています。

●医療法人 光竹会 住宅型有料老人ホーム「グランドG-1」●

〒811-1254 福岡県那珂川市道善1-121 TEL:092-951-1165 FAX:092-951-1212